全国港湾三役・単組役員

新年のあいさつ

大港労組・小嶋敏弘

組合員の皆様、ご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年二月の中央委員会の開催時に新型コロナウイルス感染症が拡大しつつあった第一回中央団交が開催されたもののその後中断を余儀なくされました。

三月から六月下旬までの間団交が開かれずこの間、各地区・各単組においても交渉が中断する事になりました。大阪港湾労働組合は春闘交渉が夏季一時金までずれ込み春闘と夏季一時金交渉の同時終結を余儀なくされた、結果は組合が思うようなかたちでは終わる事は出来ませんでした。

また他産業では雇用止めや解雇などが発生するなど、倒産企業などが多数出るなど日本だけではなく全世界に拡散する新型コロナウイルスの被害がで続けています。

二〇二一年に入ってもまだまだ感染症が収まらず二〇二一年春闘が通年のように行われるのかが心配です。

大阪港湾労働組合は各組合と連携を大切にし、全国港湾の産別運動の強化に取り組んで行きたいと思います。

これから先益々港湾労働者にも厳しい風が吹くと思いますが、どんな状況になろうとも全国の仲間の労働環境の向上を目指して仲間と共に一致団結して闘い二〇二一年の春闘勝利に向けて頑張って行きたいと思います。

全港湾・真島勝重

謹んで新春をお祝い申し上げます。

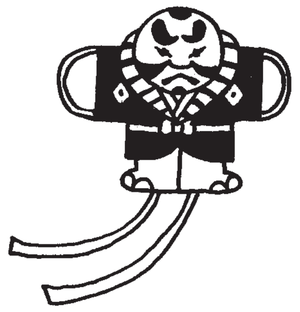
新型コロナが全国各地に蔓延し、第一波、第二波、そして秋からの第三波は収束見通しも立っていません。具体的対策を実行せず、今なお感染が拡大し、蔓延している事実を見れば、もはや明らかに国による人災であります。

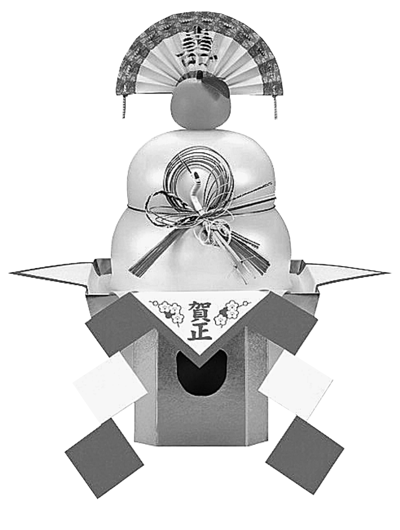
私たち港湾労働者はエッセンシャルワーカーです。所謂、生活維持に欠かせない職業に就いています。国内の輸出入貨物の九九％以上が港を通過する。港が止まると物流が止まる、それならば、国による港運事業者や港湾労働者に対するコロナ保護政策など目に見える感染対策が特別にあってしかるべきです。それでも、私たちは日頃より安全衛生・労働災害撲滅に、誰より高い危機意識、安全対策の下で日々作業を遂行していることは、港湾地域でクラスターが発生していないことが証明しています。今以上に感染対策を行うとともに、日本の経済にとって必要不可欠な産業であるという自信と誇りを持って進んでいかなければなりません。

二〇二一年は丑年です。子年に蒔いた種が芽を出して成長する年とされています。丑年には、先を急がず目前のことを着実に進めることが将来の成功につながっていくといわれています。牛関係で一言、私は中学の卒業アルバムには「鶏口となるも牛後となるなかれ」と目標に掲げていました。鶏口牛後の対義語には「寄らば大樹の陰」があります。「鶏口」と「牛後」のどちらを選ぶかは、その人の環境や価値観、生き方によりますが、少なくとも労働組合という組織にとって、最も重要なことは、環境を改善し、価値観を共有する意思統一を行い、団結して、目標に向かって前進することです。全国港湾の第一義とは何か、そのために何をなすべきか、常に自分自身に問い続けていきます。

この新しい年がより良き年になるよう心より祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

一緒に頑張りましょう！





全国港湾・玉田雅也

新年あけましておめでとうございます。新しい年が、組合員の皆様やご家族の皆様にとって素晴らしい、幸多い年でありますことを心より祈念いたします。

昨年は、世界で新型コロナウィルス感染が蔓延し、今の瞬間も感染拡大が続いています。まさに「不安と隣り合わせの日常」を強いられ、とりわけ、港湾の職場は「社会経済活動にとって不可欠で、その事業の継続」が要請されたことから、まさに仕事も「不安と同居」で、組合員の皆様には大変な一年であったし、感染の収束が見込めない現状は、より厳しい一年を覚悟せざるを得ません。

とはいえ、「仕方がない」と立ち止まっていても、先行きの明るさは見えてきません。こうした時こそ、仲間と知恵と力を出し合う労働組合の頑張りが必要だと思います。

本年は「丑年」です。牛は農業を手伝ってくれる貴重な動物で、農業を支える牛にあやかって「丑年は新しい芽を生み出す年」ともいわれています。丑年を顧みると、六一年はNHK連続TV小説ドラマの開始、七三年はオイルショック、八五年はファミコン・スーパーマリオの誕生、九七年は消費税が三％から五％に増税、〇九年は政権交代と、良し悪しはありますが「新しい芽」が出た年であったことは間違いないようです。

働く者の暮らしや仕事を圧迫するような「新しい芽」は勘弁願いたいが、そうであれば、力を合わせて、その芽を摘みとることが必要です。そうではない、新しい芽を大いに期待したいと思いますし、自らも「新しい課題に挑戦し、新しい芽を育てる年」にしたいと思います。仲間とご家族のご健勝をお祈りしつつ。

全倉運・多田翔一

明けましておめでとうございます。組合員の皆様、ご家族の皆様におかれましては謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年においては一年を通してコロナ禍の影響を受けた年で御座いました。春闘・秋闘ともに通常の開催よりも小規模・少数精鋭の活動となる中、組合員の皆様のご尽力により今日まで戦い続けることができております。一方で、経済活動が縮小してしまい、人や物の動きが鈍くなることで、港湾や倉庫業界にダイレクトに悪影響を与えていく中で、決して十分とは言えない補助金、一歩も二歩も遅い感染対策、その上、政府は自粛要請ばかりでろくな動きも見せずに我々の負担は増すばかりです。長期政権から腐敗の限りを尽くした安倍政権が終わり、少しでも改善につながるのではないかという期待感に盛り上がった次の首相は安倍首相の片腕であった菅首相。結果的には安倍首相の政治をほぼ継承する形で、一国の代表が変わったという大きな出来事であった割には我々の生活にはほとんど影響が御座いませんでした。すでに支持率も急降下の様相に代表されるように、我々の期待感を完全に裏切る結果となっております。

今年度は延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが行われる「予定」の年で、関連の特需に伴う経済活動の活性化が期待されていますが、このコロナ第三波の流れの中でその「予定」がどこまで現実的なものになるかは、未だ効果もあやふやな上に副作用なども噂されるワクチン次第という砂上の楼閣のような状態で御座います。

新年の始まりから暗い話ばかりで恐縮では御座いますが、このような時こそ皆様と一致団結し、少しでも我々の待遇をいいものに変えていくべく全力で闘っていく所存で御座います。

最後になりますが、このコロナ禍だからこそご家族の皆様お揃いで、どうぞ穏やかに新春をお過ごしください。皆様のご健康とご多幸を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

日港労連・竹内一

仲間の皆様方におかれましては様々な山積する産別諸課題に対しまして、地域現場として全国港湾を支えていただきまして心から感謝申し上げます。

全国港湾はまさに地域と現場の仲間で成り立っています。

さて、年頭、新年と申しましても、一連の新型コロナ禍が一向におさまる気配すらみせないなか、おめでとうございますとは、お世辞にもいえません。

いま、我々を取り巻く産別諸課題につきましては、二〇春闘終了後に引き続き多岐にわたる協議議題が存在するなか、国や政党、労使政策委員会等での協議を昨年内に精力的に取り組みを展開しつつも、一連のコロナ禍に起因し画面会議を駆使しながら限られた中での機関運営となっております。

我々は、二〇春闘終了後から二一春闘開始までの間、早速に取り組むべき諸課題が山積しています。ひとつは、一連のコロナ禍に係る仲間の給料補償の問題です。港湾労働者は残念ながら残業依存型の給料水準であり、仮に罹患の恐れの段階（感染前）でも休業をせねばならない事態におかれています。この場合、やはり残業込みの給料補償を使用者側に求めていくことが肝要であり、現在も日港協に対し労使政策委員会をとおして求めております。

もうひとつは、賃上げであります。一連のコロナ禍のなか、業量の低下等で非常に厳しい二一賃上げが各方面からいわれていますが、先述したとおり、我々は、命がけで現場で就労している立場から、こういう時だからこそ、あえて適正賃上げ確保を闘っていく二一春闘にせねばなりません。

いずれにしましても、二一春闘開始までの取り組み及び二一春闘開始からの取り組み、我々はまさに今時点で春闘の取り組みを継続している立場であることについて強調しておきたいと考えます。

我々、港湾労働者にとりまして二一春闘はまさに、港湾労働者そのものの存在が問われる大きな春闘になると確信するものであります。

そういった意味におきまして、既に二〇春闘妥結から二一春闘は始まっているといえます。

どうか、我々港湾労働者の為となる取り組みを引き続き講じていける力の継続を共に誓いあいまして、年頭にあたっての決意とさせていただきます。

検数労連・瀬戸修

全国港湾の仲間の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は終始コロナウイルスに翻弄されて団交や協議が不十分でした。本年も不自由な環境かとも思われますが「産別の要求貫徹、難題の解決」に向けて微力ながら頑張ります。宜しくお願い致します。

昨年の新年挨拶で、安倍首相の桜を見る会が私物化云々と始めたのですが、長期安倍政権は退陣、菅内閣に交代しています。新たな政策を期待？しましたが、やはり安倍ニズムの踏襲をしています。昨年七月以降、解雇・派遣切りなど失業率が二〇一七年以来の三％に達しました。また、これに関係して自殺者数なども増加傾向にあり、特記すべきは女性の母子家庭が倍増していることは見逃せません。菅総理が述べた「自助・共助・公助」とは社会の弱者・生活困窮者を切り捨てることでしょうか？新型コロナウイルス感染が拡大し、政府の顧問機関（有識者らによる新型コロナウイルス対策分科会）が医療機関の崩壊を示唆しても何ら具体策を出さず都道府県へ対策を丸投げ、GOTOトラベルは十二月中旬にようやく一旦止めましたが、国としては雇調金も事業支援金なども年度で終わらせる、まさしく市民生活を無視して経済最優先の姿勢です。

悪病退散・悪政退任！

産別の課題としては、RTGの遠隔操作があります。昨年は三地域と一昨年の名古屋が当該労使で協議・押印しました。この課題は今後も展開していくことになると思われます。

認可料金制度については昨年から、行政に労働組合が要請に行くだけではなく、産別労使で議員や政党も視野に入れた運動へ飛躍を目指しています。

老朽化火力発電施設の削減に対しては、全国を視野に入れ所管行政だけでなく当該委員などを行っている政党や議員とも懇談を重ねて運動をより幅広いものにします。

指定事業体部会の課題ではまず、四検が揃って協議できるよう粘り強く求めていきます。

統一回答問題では中労委から都労委へ移されましたが、労使の主張点は平行線で具体的な解決策はまだ出てきていません。

今のところコロナの関係で、昨年のように交渉や協議など規制を受けることも考えられますが、必ず好転の機会があると信じて邁進していきましょう。

昨年、コロナ禍でも大ブレークしたのが「鬼滅の刃」でした。仲間達と協力してひたむきに鬼と闘い続け、最後には鬼舞辻無惨（きぶつじむざん＝鬼の頭）を倒した主人公、竈門炭治郎（かまどたんじろう）に習って私たちも……全国が集中する「全集中」産別運動で頑張っていきましょう。

検定労連・遠藤一幸

明けましておめでとう御座います。

全国港湾に結集する組合員の皆さんに謹んでご挨拶もうしあげます。

二〇二一年は新型コロナの感染拡大が猛威を振るう状況の中での年明けとなりました。

私達が今まで経験した事のない感染の恐怖が続く中、無為無策ともいえる政府の対応により、命を守る医療従事者からは医療崩壊間近との声が上がっています。また中小零細の事業主や非正規雇用の労働者の雇用や収入の喪失は計り知れず、一年前に課せられた消費税増税とも相俟って、生活に困窮する世帯が拡がっています。

振り返ると政府は、新型コロナ感染拡大を封じ込める絶好の機会だった夏、感染者が減っていた時期での対策を怠り、野党からの国会開催の要求にも背を向けてきた事は、政権に就く資格が無いと言えるでしょう。

しかし今必要な議論は、切迫したこの状況を乗り越える為に、まず何をするべきかであります。優先すべきは医療機関への他厚い支援であり、倒産や失業をくい止める為の速やかな補償です。

国会で真面な答弁も出来ず、虚偽と隠蔽の安倍前首相を支えてきた菅現政権への批判は、来るべき衆院総選挙で国民によって審判が下されるでしょう。

自由競争と自己責任の政治の危うさを思い知らされた一年でしたが、国民の気持ちに寄り添った民主的な政府を築くことを願わずにいられません。

今年も働く者にとっては厳しい年になると思われますが、力を合わせ頑張りましょう。